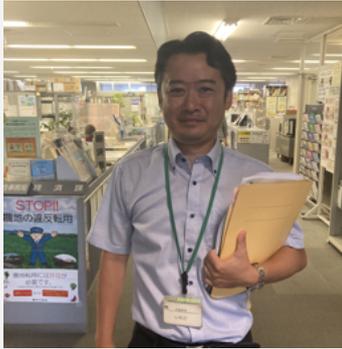


# play here member



統括：

岩佐健一郎（環境政策課長）

「私は、民間企業（食品メーカー）で8年勤務後、小金井市役所のコミュニティ文化課、男女共同参画室、職員課を経て、現職の環境政策課で環境や緑、公園に係る仕事を担当させていただいています。

市では、市立公園において、あらゆる子どもや保護者同士が誰でも参加できる遊び場等を整備し、相互理解の促進を図ることによって共生社会の実現を目指しており、様々な方々に支えられながらプロジェクトを推進しているところです。このプロジェクトでは、インクルーシブデザインに配慮した遊び場等を整備することがゴールではなく、整備することによって、利用者同士の交流が生まれ、お互いを思いやる気持ちが育まれ、公園を誰もが気持ち良く安心して過ごせる場所にしたいと考えています。

令和5年度から3か年のプロジェクトになりますが、その先、誰もが利用しやすい場所になっているのか、訪れたい場所になっているのか等の視点も重要であり、そのためにも、皆様の生の声をお聞かせいただき、今後の事業展開に活かしていきたいと考えています。ご理解・ご協力の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。」



プロジェクト担当：

小林勢（環境政策課緑と公園係・写真左）

「私は、公園を管理する部署で働かせていただいて7年目となりますが、ちょうど配属されたときに、双子の子どもが生まれ、育児をしていく中で、公園があったから精神的に助けられた経験があります。

公園に行くと、子どもの笑顔を見ることができた、親も少しほっとできた、日頃の悩みが共有できた、そんな時間が市内の公園でも増えたらいいなという思いがきっかけで、このプロジェクトを立ち上げました。ただ、知的障害の妹もいますので、公園に行きたくても行けない方もいることも知っています。今まで公園に行けなかった方が、行ってみたい、この公園があつてよかったと思ってもらえるようにしていくためには、公園に行けない背景や公園自体の様々な課題を、みなさんと一緒に考えて解決していくことが大切です。

このプロジェクトを始める前から、公園で活動する方々に相談してきた中で、多くの方が趣旨をご理解いただき、協力したいというお声をいただいています。小金井市だからできること、みなさんとならできることが多くあると思います。小金井市に住んでいてよかったと思ってもらえるような公園をみなさんと一緒につくっていきたいと思います。」

### 山崎寛之（経済課・写真右）

「私は、経済課の農業振興を担当する部署に配属されて5年目となります。公共施設の中でも気軽に立ち寄ることができる施設『公園』で、小金井の『農』に関するPRができないかと考えたことがこのプロジェクトに関わるきっかけとなりました。

都市における農地は、地産地消や食育、交流、防災、環境保全などの多面的な機能が期待される公共的な面を持ちます。一方、農地の制度や税制面等からイベントや新しい取組を行う上での制約が多くありますし、農作物の生産現場であり、かつ、所有者のプライベートな空間でもありますので、収穫体験等のイベントを除けば、農業者以外の方が日常的に農地に関わることはほとんどないものと思います。そのため、公園に誰もが参加できる菜園があれば、市民が気軽に『農』に触れることができますし、市内農業者と市民の交流等を通して都市農業や市内農業者のファンづくりのきっかけになるのではないかと考えました。

また、『植える作物を考える→育てる→収穫する→食べてみる・加工してみる・販売してみる→植える作物を考える...』といった過程は、子ども達の考える力を育むとともに、一緒に農作業を行うことで子どもだけでなくそこに関わる大人同士の継続的な交流や農以外の他分野との連携も見込めます。子どもも大人も気軽なつながりを入口に、楽しみながらそうした体験を重ねていくことで、地域で話せたり、安心できる人が増えていき、新たな何かにつながったり、人生が少し豊かに感じられる。そのきっかけとなれるような場所を皆さんと一緒につくっていきたいと考えています。」



ディレクター：

熊井晃史（「とをが」主宰／「GAKU」事務局長／「東京学芸大子ども未来研究所」教育支援フェロー／「公民館のしあさって」編集）

「武蔵野市で生まれて、三鷹市で育って、小金井市に事務所とギャラリーのような場所を構えています。ずっと教育の仕事をしてきていますが、そこにあるのは学校とともに、学校の外の学びも豊かにしていきたいという思いでした。まさに、公園もその舞台の一つです。

一方で私は、難病を抱えている息子を持つ父親という立場もあります。ということもあり、このプロジェクトがより良くなっていくということ、あらゆる角度から願いつつ、途中ではありますが令和6年度から参加することになりました。とはいえ、その『より良い』とはどのようなことか。それをしっかりと問い続け、考え続けていくことが欠かせないと考えています。そのような思いから、当事者の方々、専門家の方々、関係者の方々にじっくりゆっくりお話をおうかがいしていくことに決めました。どうなるかわからないけど、確かに感じる良い予感といったようなものを手繰り寄せながら、より良い状況を生み出していく。その一助になりたいと思います。」



リサーチャー・事務局：

小野崎研郎、荒ひかり（パシフィックコンサルタンツ株式会社）

「私たちは、建設コンサルタントとして、これまで様々な自治体の公園の計画・整備事業に関わってきました。そもそも公園は全ての人に開かれた空間であり、だれもが気軽に利用できる場所として、みなさんの日々の暮らしの一部にあるべきものと考えています。あたりまえに聞こえるかもしれませんが、本当の意味でそれを実現させることが実はとても難しいと、これまでの経験からも強く感じています。

近年、インクルーシブな公園の整備が全国で進んでいますが、整備はゴールではなく、スタートです。みんなが遊べる公園をみんなで作っていく・・・あたりまえだけれど難しい、しかしとても大切な取組みの実現に向けて、しっかりとスタートが切れるよう、そして、小金井市の公園がよりみなさんの日々の暮らしに欠かせない場所となるよう、私たちもお手伝いのできればと考えています。」